

## 平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	大分の地域ブランド創造体験(仮称)(Local Branding for Engaging in Oita)		授業コード	
担当教員名	吉村 充功、ほか		科目ナンバリングコード	A20803
配当学年	1	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	1泊2日×2回の宿泊型(10月～11月の土日と、2月～3月の春休み期間中で設定)で実施しますので、参加できることを確認して履修してください。実習合宿地は、国東市です。送迎バスを運行します。宿泊等の費用は不要ですが、食費は実費負担です。必要なものについては、別途指示します。			
受講心得	県内の大学・短大・高専8大学の学生が合同で合宿研修を行いますので、目的意識を持って、主体的に臨んでください。			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書				
関連科目	ジェネリックスキル養成1・2、大分を創る人材を育成する科目(COC+)「初年次地域キャリアデザインワークショップ」			
授業の目的	農山漁村や中山間地域における特産品の6次産業化とそのブランド化は、持続可能で活力ある大分県を実現する上で不可欠です。本授業では、こうした問題を解決し「地方創生」できる人材を育成する足掛かりとして、地域ブランドを掘り起こすための力と企画力の育成を目的とします。			
授業の概要	本科目は、「大分を創る人材を育成する科目」として、大分県内の行政機関や企業から提示されたテーマに対して異校種、異なる学部学生から構成されるグループで、地域の関係者と共に、地域のデータやフィールド調査の情報などの事実を整理分析し、地域の魅力と地域が抱えている課題を指摘し、魅力を活かした課題解決方法を探るとともに、その解決のための方策を提案することをねらいとする。			

### ○授業計画

学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1回：合宿1回目初日：授業の目標に向かってのテーマ設定と授業展開づくり</b> ①授業のねらいや訪問の際の心構えについて説明 ②授業実施のためのグループづくり ③アンケート、自己チェックシート実施	
<b>第2回：地域体験活動1-1</b> ①6次産業に取り組んでいる農林水産業関係者を2箇所程度訪問	
<b>第3回：地域体験活動1-2</b> ②道の駅にて、6次産品の販売状況のヒアリング	
<b>第4回：ワークショップ(初日振り返り)</b> ①体験して得られた気付きをまとめる、2日目の導入 ②6次産品をブランド化するストーリーの必要性の説明	当日の活動のふり返りをともに翌日に向けた目標の整理を行って下さい(1時間)。
<b>第5回：合宿1回目2日目：地域体験活動2-1</b> ①国東半島の歴史文化的特徴を知る(両子寺他)	
<b>第6回：地域体験活動2-2</b> ②国東半島の歴史文化的特徴を知る(両子寺他)	
<b>第7回：ワークショップ(2日目の振り返り)</b> ①国東の魅力をまとめる ②6次産品をブランド化するストーリーの提案資料作成	
<b>第8回：中間発表①、2回目に向けてガイダンス</b> ①模造紙にまとめて発表	①宿題 個人毎に6次産品を構想する ※ワークシート1枚(A3)用意して2週間以内に提出(10時間)
<b>第9回：合宿2回目初日：個人発表、統合プランの検討</b>	

①1回目合宿のワークシートをグループ内で発表 ②総合プランを模造紙に整理		
<b>第10回：中間発表②</b> ①総合プランを発表して、地域おこし協力隊、自治体関係者からの評価を受ける ※不足情報を認識し、班毎に再訪問先を決定		
<b>第11回：地域体験活動3</b> ①班毎に情報収集する		
<b>第12回：6次製品の企画書作成</b> ①学生視点から6次製品の提案を検討して模造紙に整理する		
<b>第13回：合宿2回目2日目：6次製品の企画書作成</b> ※前日のつづき		
<b>第14回：最終成果発表と講評</b> ①模造紙を使って班ごとに6次製品の提案		
<b>第15回 振り返り</b> ①個人コメント発表 ②自己チェックシート		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー I：ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

<b>【関心・意欲・態度】</b>	
<b>【知識・理解】</b>	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	①他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	②地域での活動を体験して情報収集・分析し、テーマに関する地域社会が直面する課題を明らかにすることができる。 ③地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発を提案することができる。 ④地域が抱える課題を知り、地域資源を活かした柔軟性を保った活性化策の計画立案を行い、提案することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。				
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		40点	30点	

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	①課題の指摘や提案等の資料及びプレゼン資料、②班での課題解決のための提案とその内容、③振り返りポートフォリオを評価します。なお、評価の基準(ルーブリック)は当日配布します。
発表・その他 (無形成果)	中間発表、最終発表を評価します。評価は①指導する教員、②情報提供者が評価します。また、授業中のグループ討議等での発言や参加状況も評価します。なお、成績評価の基準(ルーブリック)は当日配布します。